

伊東市民病院で ごびいます。

Vol.7
2017
August



広報紙「伊東市民病院でごびいます。」は今号で1周年を迎えました。
これからも本紙をよろしく願いいたします。





Q1. 医師を志した理由は何ですか？

父方が二代で医師をやっていて、母の祖父も医師であり、医師になるものだとは幼い頃より期待されていたことが最も大きな理由です。特に父方の祖母は小さな田舎町で人力車に乗って赤ひげ先生のような医療活動をしていました。それになんとなく憧れていたのかもしれませんが。

Q2. 整形外科で力を入れていることを教えてください。

大学で肩疾患を専門にしていたので特に興味があり力を入れています。国立病院時代はリウマチの患者さんが多く、自然とリウマチにも関わるようになりました。最近メトトレキサートや生物学的製剤の使用により、関節リウマチは格段に治療成績が向上し、患者さんの症状が良くなるので治療していて充実感があります。また、保存治療成績の向上により数は減少しましたが、膝、股関節の人工関節手術にも力を入れています。超音波機器の格段の進歩により日常診療の大きな手助けになりつつあり、今後さらなる発展が期待されますので積極的に診療に使用していきたいと考えています。

1日でも長く医療を続けられるよう 頑張っています

Q3. 副管理者として伊東市民病院のあるべき姿をお聞かせください。

地方の病院の最大の問題点は常に人材が足りないことです。医師、看護師、薬剤師、検査技師、レントゲン技師、看護助手等全てが足りない状態です。多くの医師は大都市での診療を目指します。子どもの教育、最先端の医療技術の習得を目指すことを考えれば当たり前のことかもしれませんが。

当病院にも多くの若い医師がお見えになりますが、3、6カ月の短期間の方がほとんどで、伊東で長く医療を続けようとする方は稀です。これではなかなか市民の為の病院にはなれません。若い医師に『残りたい』と思わせる魅力がなければならぬと思います。容易なことではありませんが頑張ります。

Q4. 先生の趣味や健康維持のために普段実践していることは？

とにかく仕事に追われている毎日です。体重オーバーになり、患者さんが私のハードワークと健康を心配しています。1年半前より糖質ダイエットを行い、現在10キロ程度体重を減量することができました。

正直ストレスが多いので、運動を兼ねてゴルフをできるだけするように心がけています。スコアは何十年やってもあまり改善しなかったのですが、最近少しずつ良くなってきています。

Q5. 地域の皆さんにメッセージをお願いします。

伊東で勤務して30年を超えました。私のように1カ所の病院にこれほど長く勤務する人はほとんどいません。良いことも悪いこともありましたが、ここまでくると健康に留意して1日でも長く伊東で医療を続けられるようにと意思を固めています。今後ともよろしくお願いいたします。

こりゃイイねー! /

リハビリテーションヨシヨシ便利グッズ

「ヘルシー☆オイシー♪レシピ」コーナーはしばらくお休みさせていただきます。

今号から身体に不自由があっても「できる!」を実現するリハビリテーション便利グッズ(自助具)をご紹介します。

Vol.1 骨折や脳卒中の片麻痺などにより片方の腕がうまく動かせない方へ・・・

『片手ふた開け器』のご紹介です

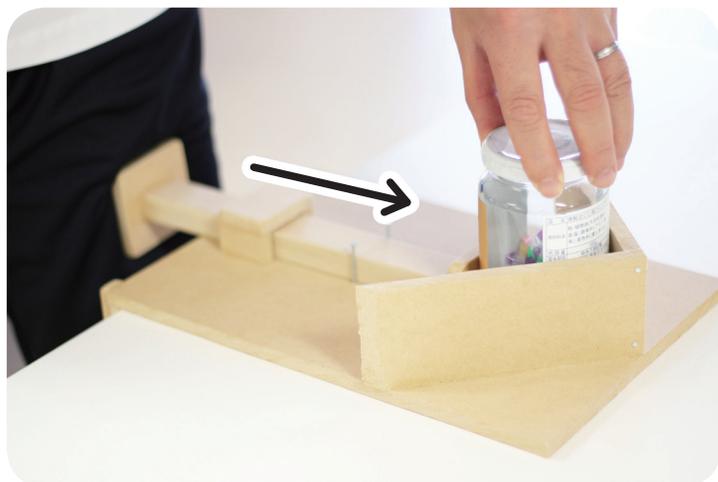
使い方はカンタン!



① テーブルの縁に引っ掛けて設置します。



② ふたを開けたいものをセットします。



③ バーを身体で押してふたを開けたいものを固定します。



④ 使用可能な手でふたを開けます。

写真で紹介しているものは手作りのものですが、市販品もあります。

詳しいことを知りたい方はリハビリテーション室までお問い合わせください。



今号の旬な話題 ...



第7回地域連携懇談会を開催しました

6月26日(月)に第7回地域連携懇談会を開催いたしました。

今回は過去最多人数となる96名が参加した盛大な会となりました。また、初の試みとして「認知症のMRI診断」をテーマに高野医院の高野俊史院長と当病院放射線科部長眞鍋知子医師による合同症例発表が行われ、濃密な時間を過ごしました。

症例発表後の懇親会では当病院主催の地域連携懇談会としては初のケータリング形式を採用し、イル・ゴルフさんのイタリア料理に舌鼓をうちながら、今後の病診連携・病病連携について意見を交わしました。

「認知症シンポジウム」を開催しました

7月22日(土)に当病院認知症疾患医療センターと伊東市医師会、伊東市の共催で認知症シンポジウムが開催されました。第1部は当センター長の築地治久医師が「物忘れと認知症の違いについて」をテーマに講演を行いました。第2部は「みんなで高齢者認知症に気づき支えましよう」をテーマにパネルディスカッションを行いました。200名程の地域住民等の方々にご来場いただき、認知症に対する関心の高さを実感しました。認知症ケアは皆で認知症の方を支えることが大切で、当センターは今後も認知症に関する知識の普及に努めていきたいと考えております。



熱海市で事例検討会を開催しました

熱海伊東圏域のセンターとして、熱海地域とも顔の見える連携づくりを目指す一環として、6月21日(水)に熱海市地域包括支援センター職員、7月18日(火)に熱海市ケアマネ・ヘルパー・施設職員を対象に、認知症疾患医療センター主催で事例検討会を開催いたしました。事例検討会後に熱海市の実情について意見交換会も行いました。



研修会のご案内

開催日時	対象者	研修会名	場所
8.9 (水) 11:00	一般市民	看護公開講座&相談会	伊東市民病院2階喫茶やまもも前
9.25 (月) 17:30	医療従事者	付き合っていこう認知症「認知症は病気ではない」	熱海市 起雲閣
11.27 (月) 17:30	医療従事者	付き合っていこう認知症「せん妄・精神疾患との違い」	伊東市民病院 講堂



伊東市民病院
Ito municipal hospital

〒414-0055 静岡県伊東市岡196-1
<http://www.ito-shimin-hp.jp/>

TEL:0557-37-2626

伊東市民病院

